

# 信州大学 経済学部同窓会報

第 7 号

学部創立30周年記念特集号

平成20年12月25日発行

発行者 信州大学経済学部同窓会  
同窓会事務局 〒390-8621  
長野県松本市旭3-1-1  
信州大学経済学部内  
TEL・FAX 0263-37-2309

E-mail : k-doso@shinshu-u.ac.jp  
URL : http://www.econ.shinshu-u.ac.jp/index.html



第七号の紙面より

- 会長あいさつ 矢口晋司
- 学部長あいさつ 渡邊 裕
- 経済学部創立30周年記念行事  
式典・記念講演……手塚 伸  
シンポジウム……伊東一雄  
祝賀会……澤柳信也
- 会員のたより  
田中史郎 (1974年入学)  
中村知史 (1980年入学)

- 関谷昌英 (1986年入学)
- 杉村伸哉 (1992年入学)
- 寺村英樹 (1995年入学)
- 文理学部卒業生からのたより  
可知偉行 (文理学部同窓会長)  
金岩博司 (1968年卒業)
- 卒業生による講義—平成20年度  
現代の産業・社会事情  
古澤栄一

- 同窓会理事会報告
- 同窓会総会報告
- 東京同窓会案内
- 編集後記



## 会長あいさつ

三十周年記念によせて

会長 矢口 晋司  
(1978年入学)



信州大学経済学部同窓会員の皆様におかれましては、各分野で広く活躍のこととお喜び申し上げます。平素より、母校の発展ならびに同窓会活動に対し何かと関心を頂きありがとうございます。

さて十月十二日に開催されました、同窓会総会ならびに信州大学経済学部創立三十周年記念行事にご参加頂きました同窓会員の皆様方に、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。また、厳粛な雰囲気の中挙行された記念式典、安川長野県経営者協会会長による記念講演、個性溢れた卒業生六名の皆様による経済学部三十年の歴史を振り返るシンポジウム、そして会場を移しての祝賀会と限られた時間の中で予定されたスケジュールが順調に執り行われましたのも、一重に準備にあたられた渡邊学部長をはじめとした先生方ならびに事務局の皆様方のご努力の賜物と感謝いたす次第であります。

## いさつ

記念行事に参加する中で、月日の流れの速さを感じながらも、経済学部が創立以来残してきたその足跡の確かさ、地域社会にしっかりと根付き、地域とともに歩む経済学部の地位が不動のものとなっていることを強く感じたところであります。創立三十周年を迎えた記念すべきこの時を契機に、今後産学連携を深めながら、地域経済発展の一翼を担い続ける経済学部へと一層進化されるものと期待する次第です。

しかしながら国立大学独立行政法人化以降、大学を取り巻く情勢は非常に厳しいものとなっており、経済学部も削減された研究費の中

## 学部長あいさつ

経済学部創設三十周年  
記念式典を挙行して

学部長 渡邊 裕



錦秋の信州の佳き日、二〇〇八年十月十二日(日)、信州大学経済学部は、創設三十周年を記念する

で成果を期待されるという極めて厳しい環境となっております。同窓会としても、学部における研究開発支援を資金面も含め検討していく必要性を強く感じているもの、同窓会も大変厳しい財政状況にあり、具体的な支援検討も進められない状況となっております。同窓会全員の皆様方の深いご理解を頂く中で、この難局を打破していきたいと考えておりますことから、この場をお借りし、終身会費の納入を再度お願い申し上げます。

同窓会員の皆様方の一層のご活躍をご祈念申し上げますと共に、同窓会もより一層発展、成長して行く事を祈念し会長あいさつとさせていただきます。

式典、講演会、卒業生シンポジウムと祝賀会の諸行事を悉く挙行することができました。当日午前開催いたしました経済学部同窓会総会にご出席いただきました卒業生である同窓会員の方々にも多数ご参加いただき、盛大にして、しかも爽快な記念行事を実施することができました。心から感謝申し上げます。

小生から振り返りますと、学部創設時の人文学部経済学科の主要メンバーは、皆さん个性的でありエネルギーが豊富でありました。いわば少数精鋭であり、学内多数派何する者ぞという意気込みで、困

難な学部創設に取り組み実現しました。つい先頃の出来事のような感もいたします。このエネルギーをもって、その後の初期の諸改革を作りだしてきたと思います。個性派入試改革にしても、社会人講師団にしても、さてまた留学生によるミニ国際キャンパスづくりや社会人大学院づくりにしても、当時の教員集団の優れた社会感覚、実践感覚、そして政策応用技術が成し遂げた成果だと思えます。

これからの新しい道を探るとき、この創造的エネルギーが信州大学経済学部の持ち味であり、

受け継がれていくべき伝統でありましょう。三十周年式典辞書を読ませていただきながら、痛感したと思います。今後の国立大学(法人)の存在方向を展望いたしますと、これまでに経験したことがないような困難が待ちかまえております。国立大学に対する敬意と温情の時代は幕を下ろされ、市場競争的考え方と財政抑制の波間に投げ出されております。これからの経済学部は、この疾風怒濤を乗り越え、創造的伝統を発展させていく新しい体質を身につけていくことが強く求められます。

これからの経済学部を強く支えていくものは、教員集団の気概が最重要であることは論をまぢませんが、これにも増して卒業生の皆さんの愛校心と支援、そして地域社会からの信頼と支援が重要となっております。「大学から社会へ、社会から大学へ」という開かれた大学づくりの理念を実践していく逞しい社会的基盤が必須です。信州大学経済学部の志が、より高く聳え、より遠く拡がり行くために、同窓会員の皆さんとの熱い連携を期待します。

邊裕 経済学部長からは、学部誕生前後の様々な経緯が語られ、関係者への深い感謝の念が表された。私が在学中直接教えを乞うた恩師が、現在、学部長をはじめ数名となる中、一層感慨深いものがあつた。次に、文部科学省高等教育局長 徳永保様(代読)、松本市長 菅谷昭様、八十二銀行頭取 山浦愛幸様、内閣府内閣官房内閣審議官 上西康文様から、経済学部の業績や地域社会に対する貢献に対する賛辞、人材育成機関としての評価、教員OBとしての思い入れなど、様々な視点からご祝辞をいただいた。

こと、そして、そのことを示すように盛大に、しかも内容の濃い行事が行われたことは、この上もない喜びであるとともに、大学時代の情熱を取り戻す良い機会となった。これも、ひとえに渡邊学部長をはじめ、今日に至るまでの全ての関係の皆様方の熱い思いとご努力の賜と深く感謝申し上げます、小稿を閉じたい。

# 経済学部創立三十周年記念行事

## 記念式典

### 記念講演に出席して

理事 手塚 伸  
(1978年入学)

平成二十年十月十二日中秋の美しい松本において、信州大学経済学部創立三十周年記念行事が開催された。折しも、アメリカ発の金融危機が全世界を覆い、十月七日には日経平均が一時的に一万円を割り込むなど、日本経済に嘗てないほどの恐慌感が強まりはじめる中、「大学から社会へ 社会から大学へ」をス

ローガンにする経済学部の記念行事が催されたことは、単なる偶然とは思えないものを感じたところである。

国際金融資本崩壊という現実に向直し、地方自治体で産業政策を担当する者として痛切に感ずるのは、グローバル経済とローカル経済の間の溝をどのよう埋めるべきか、その中で、地域経済の担い手達がどのような役割を果たすべきか、とりわけ大学が、産学官連携を進める中で地域に如何に貢献すべきかが重要な課題として問われていることである。そして、この問に対しては、経済学部が掲げるス



ローガンを真摯に追求することが正に重要だと感じているが、このことが、ご臨席の皆様方のご発言からひしひしと感じられた。

最初に式辞を述べられた小宮山淳 信州大学長は、全学的立場から、経済学部が果たしてきた顕著な役割について、その生い立ちから語られた。また、渡

その後、長野県経営者協会会長であられる安川英昭様の講演に入った。学部長とのトークセッション形式の型破りな講演会であつたが、セイコーエプソン株式会社において、経営のトップとしてリーダーシップを発揮された安川様が「人、地域を大切に経営の大切さ」を語られた。かつて経済評論家の内橋克人氏が「実の技術・虚の技術(匠の時代再論)」の中で「.....どのような技術開発も、人間と地域社会が主人公なのである。(中略)エプソンはいまも信州・諏訪にある。『この地を離れることは決してない。』と当時トップは断言した。」と指摘していることを思いだし、地域企業への存在感を再認識した。

卒業生の一人として、母校である信州大学経済学部が我が国の学術研究、教育、地域貢献に多大な成果を残し発展している

記念式典及び記念講演に引き続き、卒業生OBによる記念シンポジウムが、講義棟二階第二講義室で行われました。徳井丞次経済学部教授の司会進行により、討論者として伊東一雄氏(七八年入学・長野県庁勤務)、伊藤晋氏(八三年入学・国際協



## 記念シンポジウム

### 卒業生OBからみた三十年史 報告

監事 伊東 一雄  
(1978年入学)



力機構勤務)、堀内秀雄氏(八九年入学・長野市役所勤務)、越智巨義氏(九三年入学・在豪州ブルートラベル&エデュケーション勤務)、石黒秀幸(九八年入学・キーエンス勤務)、濱友一郎君(〇五年入学・来春卒業予定)の六名がそれぞれ学生時代の生活状況や思い出を紹介した後、経済学部に対する評価、期待などをリレー形式で持ち時間いっぱい熱く語りました。

(伊東一雄氏)青木ゼミ所属。数多くの優秀な人材を業界や社会に送り出し高く評価されている。我々一期生もすでに大学生の子をもつ保護者世代。私の長女も経済学部三年で渡邊学部長のゼミでお世話になっている。ご指導よろしくお願ひしたい。

経済学部の更なるブランド確立に向け卒業生・同窓会として最大限協力していきたい。

(伊藤晋氏)村上ゼミ所属。下宿で友人と深夜まで熱く語り明かした。信大経済学部がユニーク入試で全国的に有名だったので就職面接などで大変に得をした。経済学部には地域に愛される大学になってほしい。

(堀内秀雄氏)野地ゼミ所属。思誠寮で友人と恋愛・社会問題を語り合った。パブル経済期で就職活動は楽だった。経済学部は今後長野市との連携・協力関係構築を期待したい。

(越智巨義氏・豪パース在住)金ゼミ所属。ユニーク入試の恩恵を受けた。こまく寮に入り面白い友人と知り合えた。信大経済学部の誇りをもって進んで



いつてほしい。

(石黒秀幸氏)柴田ゼミ所属。私たちは熱い世代。友人と都内にレオパレスを借りてアクティブな就職活動を行った。「信大経済は変わったことをやっている。私大のような大学」と言われた。大学ランキングで上位に進出するよう僕ら卒業生も貢献したい。OBによる講義をもっと増やしてもいいのではないかと増やしてもいいのではないかと(濱友一郎君)唯一在学学生。舟岡ゼミ所属。経済学部の学生は派閥の中で動いていてヨコの交流が薄い。タテの交流も弱い。キャンパスブリッジ学生誌を発行している者、写真家を目指しているもの、趣味の世界を仕事とするものなどユニーク学生が多い。就職活動は先輩OB、先生方のおかげで非常に助かった。一方通行の授業ではなく交互通行の授業が必要。理工系の学問も積極的にやるべきではないか。

(最後に)これまで経済学部を着実に築き上げ三十周年を迎えられたことは卒業生としても喜

ばしく思います。改めて学部創立にご尽力いただいた高梨先生をはじめ学部の先生方、事務局職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

**祝賀会報告**

理事 澤柳 信也 (1990年入学)

経済学部での記念式典、記念講演に引き続き、会場をホテルブエナビスタに移しての記念祝賀会が開催されました。祝賀会出席者は招待客と大学側より十六名、同窓会より四十一名の計一〇七名と盛大なものとなりました。

まず今回の記念行事委員会委員長の舟岡教授のご挨拶、矢口同窓会長からの晴れやかな挨拶がありました。後、会場舞台には一斗樽が用意され、祭はつひ姿の安川県経営者協会会長、井上松本商工会議所会頭、山浦八十二銀行頭取、小宮山信州大学学長、渡邊経済学部長、矢口同窓会長の六氏による、威勢のよい鏡開きとともに開宴となりました。

会場には信大交響楽団のメンバーにもかけつけていただき、生の演奏が流れる中で和やかな会話が会場内至るところで進みます。お客様を代表して、井上会頭、関安雄長野県経営者協会専務理事、藤沢信州大学副学長よりお祝いのスピーチをいただきました。また本学部関係者として、高梨昌、神林章夫両元学

部長、平山祐次経済学部名誉教授よりお祝いと、経済学部への期待と協力のこもった激励のお言葉をいただきました。

最後に渡邊学部長よりお礼のご挨拶があり、無事一連の記念行事が幕を閉じました。これまでの経済学部の歩み、功績を振り返りながら、思い出を語り合うとともに、五年後、十年後に向け、関係者並びに地域経済界、同窓会が一体となって、学部の発展に協力支援をしていくことを確認しあう有意義な祝賀会となりました。

**三十周年記念行事に参加して**

田中 史郎 (1974年入学)

去る十月十一日に行われた「信州大学経済学部創立三十周年記念行事」に参加させていただいた。経済学部が設立されてすでに三十年が経過したという時の早さを感じずにはいられない。

\* \* \*

例えば、私が卒業したのはまだ人文文学部経済学科の時代の一九七八年三月であり、その年の四月に経済学部が発足したので、経済学部の歴史と私の卒業後のそれは丁度重なることになる。

もっとも、卒業後には今でいうフリーターをしながら二年ほど大学にやっかいになつていたので、経済学部の誕生直後のことも多少は見聞きしている。

松本を離れてからは一度も大学を訪れたことがなかった。このたびキャンパスを訪れて、予想していたとはいえず、その変貌ぶりに戸惑った。かつてはこれほど建物が多くなく、もっと閑散としていた。また、松本の街もだいぶ変わっていた。時間があつたので、駅前やかつて下宿していた女鳥羽川沿いを散策してみたが、自分が住んでいた所を見つめることができなかつた。何となく「行けば分かるだろう」と考えていたが、そうではなかつた。三十年とは、どう



やらそのくらの時間の長さなのだろう。

今回の「記念行事」のおかげで、高梨昌先生・神林章夫先生・大谷毅先生などすでに学部を去られた先生や、渡邊裕先生にもお会いできた。何れも大変お世話になった(つまり迷惑をかけた)先生方であり、かつての不祥を恥じ、お詫びかたがたお礼を言えただけでも満足だった。

学生時代は、「政治の季節」がまだ続いており忙しく(?)、授業にはあまり出席をしていなかった。たとえば、信州大学新聞会(本史社)の主筆を名乗り、ガリ版印刷の新聞を発行したりしていた。

それでもゼミだけでは出席した。所属していた神林ゼミでは先生の指定される書物は何れもかなり難解なものばかりだった。内山節『労働過程論ノート』やロスドルスキー『資本論成立史』などには閉口した記憶がある。

そうした時にあつて、神林先生宅に逃げ込み匿つていたり、ついでに夕食をご馳走になったりということも何回かあった。また、亡くなられた玉田美治先生のご自宅に深夜いきなり訪問して議論をふっかけたことも記憶に残っている。何れも、今では信じられない「無謀」なことだろう。

その季節も風化していった卒業後には、一方で登山(「山」はやはり北アルプス!)やスキー(青木湖スキー場がおすすすめ)などを楽しみつつも、他方でよ

うやく勉強もした。神林先生と青才先生のジョイントでのゼミは、私にとつて意味深い。両先生に強引にお願いをして一年間で「資本論」全巻を読み通すという、かなり無理なことをやっていた。『資本論』は初学者にとつてやはり難解なところが多々ある。そこで、宇野弘蔵『経済原論』と同『資本論研究』を同時に引きつ戻りつ読み続けていた。私の経済学の「原点」であるといつても過言ではない。

学部生、院生、教員などとしていくつかの大学を経験したが、信大経済学部ほど「無謀」を許容する大学も多くないように感じる。その意味で居心地の良いところであった。おそらく多くの方々も同様な思いだろう。「ふるさと遠きにありて思ふもの(室生犀星)」という言葉があるが、それを換つていえば、「大学は卒業してから思うもの」ということである。か。



### 三十周年記念行事に参加して

中村 知史

(1980年入学)

このたびの三十周年記念行事に参加させて頂いているうちに二十有余年前のことが懐かしくも誇らしく思い出され、胸が熱くなつて来たが、式典から祝賀会に至る頃には、諸先生方はじめ関係者の方々も同様の気持ちを感じていることをひしひしと感じるとともに、改めて今日の自分を形成しているプリンシプル(原理・原則・根本)の多くが本学部在学中に育まれたことを認識することができた。

私が本学部に入学したのは昭和五十五年のこと、経済学部発足後の第三期生となる。学籍番号は5K、当時の四年生は未だ人文学部経済学科生だった。そもそも私が本学部を受験した経緯は甚だ好い加減なものだった。東京在住で、一年浪人した私に、高校の同級生で長野県内の著名リゾートホテル一族の御曹司が「是非一緒に受けよう」と、熱心に本学部設立の理念を語ってくれたのがきっかけ。「それなら…」と誘いに乗った私が合格し、彼は二浪して別の大学に進んだ。大体松本駅の改札を出たのは試験前日が初めてで、風邪による四十度の熱で折角の新浅間温泉も入浴出来ず、試験勉強もせず二次試験に臨んだが、試験監督の姿を拝した瞬

間、私は受験もしないうちに勝手に「自分はここで四年間学ぶことになる」と確信した。なるほど設立の理念に適った教授陣はかくも品位と知性に満ちた方々で、これを我が物とせずに行られようか、との若気の至りで今考えると恥ずかしい。後で判ったことだがその試験監督は大内力先生で、今迄私が遭遇して来た方々とは明らかにスケールの違うオーラを発しておられた。後年大内先生門下の小湊繁先生のゼミに学ぶに至り、勝手に孫弟子を任じている。

晴れて入学が叶い、教養課程から学部に進むと当時の学部長は高梨昌先生、労働問題についての講義は経済学のみならず実社会を全く知らない私には未知の分野であり、統計的な実証も具体的で新鮮だった。実社会に出て都市銀行で十六年余り過ごした私は、金融再編の中で銀行を辞し、経営管理実務の学校に通った後、請負契約・派遣社員と再就職に苦労してきた。そうした経緯を持つ私が日経紙上で元雇用審議会会長としての先生が小泉改革以来の労働環境の不備・不条理を痛烈に指摘されている論文に接した際には、百万の援軍を得た気持ちになった。祝賀会場で先生にその御礼を申し上げることが出来たのみならず激励を頂いた時には、感激に胸が詰まった。

また人気ナンバーワンゼミを擁されていた平山先生が父祖の同郷であることが判り、思わず手を取り合ってお話してきたこと、当時なら畏れ多いことだが生きていれば先生方と同年代の父と再会したような懐かしさだった。

自らのゼミを選択するにあたりお世話になったのは小湊繁先生。式典の前日には昨年より始めたゼミ同窓会でOB各位と先生を囲んで昔話に花が咲いた。先生を語る上で誰もが口を揃えるのはその「優しさ」「包容力」である。教え子たる我々も既に中年の域に達し、若手を指導する立場にも在るが、すぐ上の団塊の世代の上司が甘やかしてきた彼等を我々世代が怒鳴り付けることもしばしば。ところが同じ悩みを持つゼミOB同士では決まって、「しかし小湊先生は」となつてしまふ。

今の若い方々怒られたことが無いらしく、私らが怒つて「これはここがダメだ、こうしろ、ああしろ」と言つと初めてそれを認識し、以後怒つた私の言うことを良く聞いてくれたりする。組織を手つ取り早く引き締めるのはそれで良いが果たして若い人にとつてそれで良いのか、と考えてしまふ。

小湊先生は先ず現状是認から入られた。決して失敗や誤りを責めたり否定したりせず今の状況から先ず何を指すのかを決め、それを実現するにはどう持つてくるのか、自分の力量と責任で選択するのを見守られる結果としてそれは遠回りになるだろうが、今となるとその失敗と遠回りが財産になつている。即刻結果に結び付かせ利益を





あげること至上とする現代においてこれはとても難しい。しかし小湊先生の手のひらの上で右往左往できた私達は、社会に出ると比較的困難な状況に強い思考パターンを身に付けていることに気付かされる。これは教育の目標に問題発見・解決能力を身に付けることを謳う本学部更には中央とは違う信州松本の風土・空気が相乗したればこそであろう。

信州大学経済学部における四年間がなんとこの身の血肉となつていられることが、改めて感謝せずにはいられない。

本年経済学部同窓会東京支部設立検討委員を拜命するに至り、矢口晋司会長はじめ同窓会員・同役員・事務局の皆様はもとより渡邊学部長はじめ経済学部の諸先生方とも親しく接する機会を多々頂いている。僥越ながらこれからは、微力ながら野に在つても学部にご恩返しをさせて頂くことが出来れば望外の喜びである。

### 同窓会活動 活性化のために

幹事 関屋 昌英  
(1986年入学)

さる十月十二日の日曜日、晴天の少し肌寒い松本で信大経済学部三十周年記念行事が粛々と執り行われた。プログラムとしては、午前中から理事会、総会、午後には各種記念行事、懇親会そして二次会、三次会（これはプライベートだけ）、卒業生の私にとつて、大変楽しく又長い一日であった。この記念行事には渡邊学部長をはじめとして教員の方、同窓会側からも矢口会長以下、多数の役員の方が出席されていた。これらの方々のご尽力のおかげで記念行事が無事挙行されたといつても過言ではないと思う。

私も、数年前から予定の許す限り、このタイミングで松本にお邪魔している。大学卒業後約二十年を経過し四十を迎える、若い頃には何とも思わなかったのに、「こういつた活動も悪くないな」という気持ち芽生えてくること。そして、私事だが今春名古屋立大学の経済学研究科を修了しそちらの同窓会活動にも少なからず関与する（させられる？）ことになり、比較の対象を持ちえたからかもしれない。

経済学部同窓会の役員の方々には矢口会長をはじめとして本当に一生懸命やっておられ、ただ

ただ頭が下がる思いである。しかし、それとは裏腹に最近の総会などに参加されるメンバーがどちらかという固定化され、新しいメンバーとの出会いが少ない、と感じるのは私だけだろうか？若い頃の私の様に同窓会と言つてもピンとこないだけで時が経てば皆参加するものなのだろうか？私が答えを出せる訳ではないが、折角今回こういう機会を頂いたので、今後信州大学経済学部の同窓会が活性化され発展していく為にはどうしたらいいのか、私見を三三点ほど述べてみたい。

先ず第一に思うのは同窓会の名称を作つてみてはどうだろうかという提案である。例えば、名古屋市には学部同窓会として「瑞山会」、大学院同窓会として「剣稜会」という名前がある。他の大学や高校でも同窓会の名称を冠として持っている所は少なくない。信大経済の同窓会にはなぜこいつた名前がないのだろう。これだけの規模と歴史と立派に活動を行つてきている実績があるのだから、「会」という様な卒業生の皆が寄り添えるネーミングをもつていてもいいような気がする。「今年も会の総会がそろそろだけど、お前どうする？」なんて会話が卒業生間で聞こえてきたら楽しいなと思うのだが、名前の選定に関しても、卒業生から広く公募し、決定する。名付け親には、豪華特典が：というのも盛り上がるかもしれない。もつとも、どこかの暴力団と間違われない様に

選定には慎重さを期す必要があるのだけだ。

第二にもつと会員の声を聞きだす仕組みが在るのではないだろうかという提案である。私は時間と交通費を使つて総会に出ているので、必ず一回は発言する様に心掛けています。しかし、これもなかなか意見の出ない総会では勇気のいることであり、一生懸命やっておられる執行部を批判してるんじゃないか、「お前なんか何もしてないくせに」という遠慮の念が常につきまといつたの発言であることも事実である。こいつたことを打破するために、総会には出れない卒業生の声や、意見を吸い上げる仕組みがあつてもいいのではないだろうか。Webを活用して同窓会のホームページの掲示板機能を強化する。ただ卒業生の掲示情報を待つだけでなく、アンケートなどを実施することにより双方方向のコミュニケーションにトライしてみる。メーリングリストを活用して一斉同報性を高めコミュニケーションを活性化させる。SNSを立ち上げてみるのも面白いかもしれない。記念式典でお会いした先輩が仰つていたアイデアが、電子決済口座を同窓会に持つて欲しいというものだった。その方は平日も深夜まで勤務があり、とても終身会費を払いに行くことが出来ない（払う意思はあるのに！）との由、終身会費の納入をお願いするのも大切だが、払い込み方法の選択肢を広げる工夫があつてもいいのではない

かと思う。信大経済は地方国立大でありながら、全国の俊英が集まつたので卒業生も全国に（海外も含め）点在している。Webの各種活用はネットワーク形成の観点からも有益だと思うのだが如何だろうか。

最後に卒業生名簿についてである。皆さんの所に調査カードも送付され、配布を楽しみにしておられた方も多いのではないだろうか。矢口会長から個人情報保護法とのからみで配布が難しいとの説明があつたと記憶しているが、これも今後、配布の可能性は検討出来ないだろうか。尤もゼミ単位の同窓会開催など使用目的を明確にした上で事務局へお願いをすれば現状でも名簿を活用する手段が無い訳ではないことは理解している。又この対応を一步誤ると同窓会の存立基盤を揺るがしかねない事態になる例も他大学で見たことがある。しかし、名簿つてパラパラとめくつて、「へえ、こんな人もいたんだ。みたいな使い方もあるのでないだろうか。」基本、卒業生に対し性善説に立ち、よもやの際の配布側の守りとして配布時に念書を提出しないと入手出来ないとか、無償ではなくそれなりの金額の有償配布にする等の方法をとれば運用出来る可能性もあると思うのだが（そこまですて名簿なんか欲しくない、という卒業生の声も聞こえてきそうだが）。

勝手なことを色々書いてしまった。でもこれがきっかけで来年の総会+飲み会でもつと沢

山の卒業生の方々とお会い出来、刺激しあえればこんな嬉しいことは無いと心から思っているのである。



## 感謝

杉村 伸哉  
(1992年入学)

毎年、同窓会から総会の案内状をいただき、一度は出席したいと以前から思っておりました。松本に限らず信州には毎年一、二回スキーなどで遊びに行くのですが、同窓会の総会の時期はなぜか他の行事と重なり、なかなか出席することができませんでした。今年も案内状をいただき、今回もまた出席できないのだらうなと半ば諦めつつ封を開けてみると、なんでも今年は経済学部創立三十周年記念行事も同時開催されるとのこと。これは是非、行きたい。さっそくカレンダーを見てみると三連休ではありませんか！それに他の予定は何も入っていません。すぐ

に同期で同じ山本ゼミの岸澤慶多君に連絡をとり、「ドライブ旅行をかねて出席しないか」と聞いてみると二つ返事でOK。こうして、経済学部創立三十周年記念行事に出席させていただきましたことになりました。

前日は夕方に信濃大町駅に着し、白馬に住む同期の農学部出身の友人夫婦と合流して葛温泉に入りに行きました。この紅葉は本当に素晴らしいのですが、残念ながら今回は少し時期が早かったようです。白馬方面に遊びに行く時はいつもこの農学部の友人宅で泊めてもらうのですが、今回もまたお世話になりました。この農学部の友人とは大学入学直後に共通の趣味である昆虫採集を通じて知り合いました。当時から絶滅に瀕していたので今はもう存在しないかもしれません。当時は信州大学昆虫研究会というサークルがあり、多いときには理系の学部を中心に十人ほどで活動していました。高速道路を使わずに四人で車の運転を交代しながら鳥取大学の友人を訪ね、鳥取砂丘で虫採りをしたことや、二回ほど銀嶺祭で標本の展示会をしたことなどが良い思い出となっています。

わゆるユニーク推薦で経済学部に入学することができました。自然豊かな憧れの信州で、おもいつきり昆虫採集をしたいという熱い思いを面接試験でアピールすべく、自分が採集した蝶の標本や採集道具を持ち込みました。その際、三人の面接官の先生方がおられたのですが、私の話が一番興味を持って聞いてくださったのが渡邊先生だったと記憶しております。北アルプスのように懐の深い経済学部の先生方が仕方なくこんな私を入学させてくれたのです。感謝、感謝。

「卒業生OBからみた三十年史」と題したシンポジウムでは経済学部講義棟の二階第二講義室にも入ることができ、各年代の卒業生と現役の学生との討論会をお聞きしながら、自分が学生だった頃のことをいろいろ思い出していました。その中でもやはり産業論の講義が一番思い出に残っており、特に今でも時々読んでいる「AERA」の編集長が来られたときのこと思い出されました。

ホテルブエナビスタで行われた記念祝賀会では、同じ山本ゼミの後輩と久しぶりにゆっくりと話すことができました。その中で後輩から裁判所に勤めながら、司法試験に合格し、弁護士になったと聞き、自分のことのように嬉しかったです。私は現在、土地家屋調査士と行政書士を職業としております。最初は司法書士を目指していました。大学四年の五月頃から勉強をは

じめたのですが、いろいろあり五年ほどで挫折してしまいました。ですので、後輩がどれだけ苦労をしたのか少しだけわかります。私と違い初志貫徹した彼は本当に立派です。

ちなみに、松本は土地家屋調査士制度発祥の地です。信州大学が毎年入学式をする松本市総合体育館の敷地内には平成六年に行われた土地家屋調査士制度四十五周年記念の記念碑があります。私はこのことを土地家屋調査士の登録開業をするまで、全く知りませんでした。司法書士を諦め、そのことを白馬の友人に相談し、土地家屋調査士に転向することを決めたのも、そう言えば松本駅前のマクドナルドでした。やはり、松本とは何かしらの縁があるのだなと感じています。土地家屋調査士の仕事はいわゆる3Kで、最近では同じ登記を業とする司法書士や官公署への許認可の書類を作成する行政書士とは対照的に受験生が激減しています。私も登録開業当初は戸惑いの連続でした。しかし、場所によっては明治時代に決められた境界を法務局の公図や登記簿だけでなく、航空写真等いろいろな資料に基づきさまざまな角度で考察し、本来の境界を探し出して確認するという業務に最近ではやりがいを感じています。まだまだ経験不足ですが、今後、ADR（裁判外紛争解決手続）や境界確定訴訟での境界鑑定業務に携われたらと思っています。経済学部の後輩の中からも土地家屋調査

士を目指す人たちが現れてくれることを願っております。

今回、残念ながら他の大学に移られた山本先生とはお会いすることが出来ませんでした。しかし、奥様の西村先生からご連絡先をお聞きすることができ、後日、無事に連絡をとることができました。後輩とも話していたのですが、これを機に山本ゼミのOB会ができたらいいなと思っています。

翌日は朝、県の森公園の「旧制高等学校記念館」で開催されていた北杜夫さんの「どくとるマンボウ昆虫展」を見学に行きました。私が一年生の時、信州大学昆虫研究会の名譽会長だった北さんが、OBの先輩の所に遊びに来られたのですが、私はお会いすることができませんでした。それが今でも残念で仕方ありません。今回の旅行につきあってくれた岸澤君とはじめて出会ったのも、同じ年に県の森公園で行われた全学部一年生だけの県の森フェスティバルでした。

私は信州大学で本当にたくさんの友人と出会うことができました。その友人たちからいろいろの影響を受け、そのおかげで大学の四年間だけでなくその後、十数年の四十周年記念時には、今年生まれかわりい我が子がちょうど十歳になります。その時はまた多くの同級生を誘い、家族揃って大好きな松本、大好きな信州大学を訪れたいと思います。





### 三十周年記念 行事に参加して

寺村 英樹  
(1995年入学)

同窓会会員の皆様、こんにちは。今回、学部創立三十周年記念行事に出席させていただきましたという事で、沢山の会員の皆様がいらっしゃる中で執筆依頼をいただき、大変恐縮に存じます。まずは、今回の記念行事にあたり運営や事前準備をいただきました事務局の皆様方へお礼申し上げます。それぞれにお忙しいとお過ごしの中、大変お世話になりました。同世代の方の出席は残念ながら多くはなかったですが、各年代の卒業生の方によるシンポジウムなどすべての行事に参加させていただきますことにより、改めてこれまでの経済学部の歩みについて知ることができ、あわせて皆様幅広い業界でそれぞれにご活躍されているのだなあと感じました。これまでも経済学部新棟のお披露目の折や

同窓会総会には何回か参加させていただいておりましたが、今回は特に三十年の節目の行事として盛大に開催され、出席させていただき大変有意義で、すがすがしい気持ちになることが出来ました。

私も卒業後、まもなく、はや十年を迎えようとしております。卒業した後は仕事に追われて参加することが出来なかつた。思っていた、「サイトウキネンフェスティバル」へのボランティアも毎年数日間ではありますが、継続して関わらせていただいていた。一年に一回の「恒例行事」となってきました。そうすることにより毎年松本を訪れるいい機会となつております。その際には、ゼミでお世話になった小湊先生宅を訪問させていただきました。里帰りしたように、ご夫妻でいつも暖かく迎えてくださることも継続参加できている大きな要素であると思えます。昨年からは、ゼミOB会も開催していた。ただることにより、訪れる機会も増えました。

小さい時から家族で毎年信州を訪れていたことや私の故郷彦根と同じく国宝のお城を持つ落ち着いた城下町であることが信州大学を志望した理由ではありましたが、卒業後の今でも松本や信州大学の存在は大変身近であり、「第二の故郷」と感じています。

私の在学中を振り返りますと、スキー合宿や自らアポイントの連絡をし、行程を組んだ企業見学など、やはりゼミにおける思

い出が多いですが、数多くの授業を受講させていただいたことにより多くの先生方にお世話になることができたことや各国からの留学生の方と交流できたことなども幸いなことでした。また、在学中にタイミングよく長野オリンピックが開催され白馬会場においてボランティアとして参加するというまたとない機会にも恵まれました。

私は卒業後、関西電力株式会社に入社しこれまで飲食チェーン本部へのお役立ち活動や中央省庁との窓口役などを経験させていただきました。昨年の六月からは五年先・十年先の電力需要を想定したり毎月の需要動向を取りまとめるという業務に携わらせていただいております。昼夜曜日を問わず日々慌しく過ごしております。この夏には経済学部より「平成十九年度の『現代の産業・社会事情』において話を」との大変光栄なお声がけをいただきながら現業務との時間の折り合いがつかずお受けすることが出来ませんでした。今後もし、私でも何らかの形で役に立てることがあるのであればと思っております。

経済学部におかれましては、以前から入試改革やノートパソコン購入を義務付けた情報教育・卒業生や各界の著名人による特別講義・就職支援活動など他大学に先駆けた画期的な取り組みが大きな成果に繋がってきたと思えます。今後引き続き一歩先を歩んでいただき、将来各方面で活躍される人材の教育

や地域社会への貢献などを通じ、ますます発展されますことを卒業生のひとりとして期待しております。

他大学と比べ歴史の長さや卒業生の数では及ばないかもしれませんが、逆に言うところ「顔の見えるアットホームな存在」であると思えます。全国各地各業界で活躍されている皆様とのネットワークを充実していただく

## 文理学部卒業生からのたより

### 文理コーナーについて

経済学部設立の歴史を辿ると、一九四九年六月一日に信州大学開校とともに設置された文理学部社会科学科に行き着きます。平成十六年度同窓会総会において、文理学部社会科学科卒業生の皆様方を経済学部卒業生名簿に記載させて頂くことはご了承頂いているところですが、この度、文理学部三学科の卒業生がそれぞれに対応する人文学部・経済学部・理学部各同窓会と連携しながら、共に大学ならびに学部の発展に寄与して行くことが同窓会役員連絡会で確認がなされました。この動きを受け、各学部同窓会会報に文理コーナーを設け、文理の時代の思い出を紹介頂くこととなりました。(会長)

こともあわせて期待しております。同窓会の皆様方におかれまして、それぞれにお忙しくされていることは存じますが、少しでも機会が持てるようでしたら、松本を訪問されることや、同窓会行事にご出席されることにより、学生時代を振り返り、リフレッシュした気分になれるのではないのでしょうか。

### ご挨拶

文理学部同窓会長  
可知 偉行

人文・経済・理学部同窓会の皆さん、皆さんの学部の前身である文理学部についてお伝えします。今後、文理学部の三学科(人文科学科、社会科学科、自然科学科)の卒業生がそれぞれに対応する人文・経済・理学部の皆さんと友好を深め六十年間を一つのまとまりとして共に大学の発展に寄与してまいりたいと考えています。そうした中でこのたび三学科の会報にそれぞれ文理のページを作つていただき、文理の時代についてお伝えすることにいたしました。この企画は、人文・経済・理学部の同窓会からの暖かい申し出によるものです。感謝申し上げます。さて、文理学部は一九四九年五月三十一日大学設置法が施行され、翌六月一日に信州大学開

校とともに設置された学部です。第一回の入学式は七月二十一日に行われました。その第一回生は人文科学科(哲学、史学、国文、英文の四専攻)三十人、社会科学科(数、物、化、生、地の五専攻)二十四人の計七十六人でした。一九六六年に文理改組により人文科学科と理学部になりましたが、一九七一年三月での最後の卒業式で、文理学部としての歴史を閉じました。この間の入学生は十七年間で一三〇〇人でした。その後、一九七八年には人文科学部から経済学部が独立しました。文理学部は県の森で学んでいましたが、県の校舎ではその後しばらくは人文・理学部の学生が学んでいました。一九七三年四月には現在の旭町に完全に移り、その後松本市文化会館として利用されています。一九八三年には思誠寮もなくなり、校舎・講堂は国の重要文化財に指定され松高・信大の歴史をどどめています。文理学部の存在を記念するものとして、「県の森フェスタ」が五月に毎年開かれています。今の人文・経済・理学部につながるものとして私たちが皆さんとともにさらに歩みを進めることができるなら幸いです。よろしく。

### 集中講義の思い出

文理学部社会科学科1968年卒業

金石 博司

私が文理学部社会科学科に入

学したのは昭和三十九年でした。社会科学科は定員二十名の小さな学科でした。常勤の教官はわずか四名、経済学の赤羽豊治郎先生、法学の岩垂肇先生、経済史の武居良明先生、労働経済論の高梨昌先生です。先生方の専門外の必修科目には当然のように集中講義が組まれていました。法律関係では京大を中心に著名な先生方が定期的に講義に来られ、それがまた魅力のひとつでした。

当時文理学部が四十一年度から改組されることが決まっていました。人文科学科は人文科学部へ自然科学科は理学部へ改組されました。社会科学科も当然学部へ改組されるものと思っていました。高梨先生などは経済学部設立にたいへん運動されたようです。結果は人文科学部経済学科へ移行ということでした。

昭和四十年の春に赤羽豊治郎先生が定年退官なさいました。学部改組のため教官の補充はありませんでした。二回生、専門課程に入って一年目は私でも向学心はありました。専攻は経済学と決めて、さて、と見回してみたら経済原論の講義がありません。高梨先生は労働経済、武居先生は経済史、教養課程で受けた赤羽先生の経済学の講義は近経で既に退官、何をどのよう

に勉強したらいいのか、わかりませんでした。夏休みに入ると恒例の集中講義が始まりました。専門の講義に飢えていた私たちは、法律を中心に受講可能な講義は片端か

ら聴きにいききました。何の基礎知識も無いのに計量経済学や民事訴訟法の講義まで、さすがに試験は受けられませんでしたが。

いまでも覚えているのは、刑法の阪大 滝川春雄先生、商法の京大 大隈健一郎先生、経済政策の東大 遠藤湘吉先生、当時若手で売出中の経済学史 田添京二先生(福島大)、財政学の林健久先生(立正大)などです。四十一年に人文科学部兼任で玉

## 卒業生による講義―平成20年度 現代の産業・社会事情

教育企画委員会・交流系科目部会

古澤 栄一

の場をお借りし、心より感謝申し上げます。

田美治先生、伊藤善雄先生が赴任してこれ、ようやくノーマルな学生生活に戻れたような気がします。あの二回生の夏の集中講義、著名教授やあこがれの先生の講義をろくな基礎知識ももたず、いわば講演会気分を受けて、単位だけもらったのは得をしたように、損をしたような気分でした。今から考えると、悔いのある思い出です。

平成五年度よりスタートした本学部の特色ある講義の一つ「現代の産業・社会事情」も今回で十五回目を迎えました。本年は学部創設三十周年でありますのでその半分を担ってきたこととなります。途中一度だけ平成十六年度に独立行政法人化に伴う非常勤講師削減のため休講せざるを得ない時期がありました。が、同窓会の皆様のご援助のおかげで再度継続することが出来、現役の学生たちにとっては先輩方(本学部卒業生)の物心両面にわたるご支援により進路を定める手がかりを得るとともに、卒業後における就業・活躍の場のイメージを広げられております。本学会と致しましてこ

さて、本年度は十二名の卒業生に講義して頂きました(受講者は一六四名)。国家公務員、地方公務員、情報関連、金融・証券、金融・銀行、IT、コンサルティング、食料品、製造業、旅行業などと業種的にもバラエティーに富むものでした。その内容も「国税専門官、徹底した正確調査、守秘義務と忍耐」、「ロールモデル、キャリアアドリフト、その時々時代のどのよう

平成20(2008)年度 担当講師一覧(敬称略)

氏名	入学年	勤務先
轟 寛	1978	長野県庁
黒田 逸	1982	関東信越国税局
神谷 秀	1984	NTTコミュニケーション(株)
清田 浩	1985	名鉄観光サービス(株)
柘上 浩	1985	三井住友銀行グループ
坂元 大	1987	商工組合中央金庫
佐藤 大	1987	コカ・コーラ・アイ・ビー・エス(株)
堀原 明	1988	(社)経済同友会
内原 秀	1989	長野市役所
下沢 正	1990	三菱総研グループ MRIRリサーチアソシエイツ(株)
古旗 美	1990	キッセイ薬品工業(株)
飯塚 洋	1996	新光電気工業(株)

い対策、おでかけパスポートの交付等、議会事務局議事調査課の仕事」、「eKOSシステム、リサイクルなど環境マネジメントへの取り組み」、「生活者の動向や嗜好を掴むダイレクトマーケティングの領域」、「役人かファシリテーターか、環境問題への地域社会と連携した取り組み」、「コンサルティング・調査業界シンクタンクの仕事」、「観光業の新たな開発、総合プロデューサー」等、非常に多岐に渡り充実したものでした。そこで、学生たちも「見聞を



広めることの重要性」、「コミュニケーション能力の必要性」、「自分自身の研究や自分を強く表現することの大切さ」を生々の現場の声から学び、今できること、今しかできないことをあらためて考え、無駄のない有意義な学生生活を送っていきたく感じたとあります。とかく学生時代は「人生の夏休み」と思われがちですが、この講義を通じて自身への振り返りや課題を突きつけられ、彼らにとつては大いなる刺激を得、先輩方からの助言は掛け替えのないプレゼントとなっています。

このように、今後の進路や将来の生き方を考えていく中で「人との出会い」を大切に、就職活動においては採用者の視点、観点も自ずとわかるよう視野を拡大し、きつと社会人になった場合に必要な心構えと姿勢を早くから身につけ行動できるように念じています。

最後になりますが、講師の皆様と関係各位に深く感謝申し上げますとともに、今後さらに多くの同窓の皆様が本学部、とりわけ後輩たちのために講師として名乗りを上げて頂き一層のご援助をお願いし、御礼並びにご依頼を申し上げ結びの言葉と致します。

## 経済学部同窓会理事会報告

- 日時：平成20年7月12日(土)  
午後3時より
- 場所：信州大学経済学部研究室
- 1 開会(樋口教授)
  - 2 同窓会長挨拶(矢口会長)
  - 3 経済学部長挨拶(渡邊学部長)
  - 4 報告事項
    - (1) 19年度・20年度同窓会活動報告について
    - 前回理事会以降の活動内容について矢口会長より報告
    - 信州大学同窓会連合会活動報告について
    - 活動内容について矢口会長より報告
  - (3) 同窓会東京支部設立検討委

- 員会報告について
- 平成20年4月12日(土)午後5時より東京都内で開催した同委員会について矢口会長より報告。
- 会則に従い、矢口会長を議長以下について協議。
- 5 協議事項
    - (1) 同窓会費の徴収状況について
    - 5月末現在、422名である事を確認。
    - 今後会員への依頼を重ね、徴収率を上げる事を確認。
    - 納入依頼文を作成、次回理事会にて検討の上、出状することを確認。
  - (2) 信州大学同窓会連合会への

- 日時：平成20年10月12日(日)  
午前9時30分より
- 場所：信州大学経済学部研究室
- 1 開会(樋口教授)
  - 2 同窓会長挨拶(矢口会長)
  - 3 経済学部長挨拶(渡邊学部長)
  - 4 報告事項
    - (1) 19年度・20年度同窓会活動報告について
    - 前回理事会以降の活動内容について矢口会長より報告
  - (2) 信州大学同窓会連合会活

平成20年度拠出金支出について

同連合会の運営費として7万円を拠出する事を決定。

(3) 同窓会総会について

- ・日程、議題を確認。
- ・役員改選に関し、現役員体制継続を総会に付議する事を決定。

(4) 経済学部創立30周年記念行事について

- ・渡邊学部長より記念行事の素案を説明。
- ・30周年記念式典はあくまで学部行事。同窓会としては趣旨に賛同し協賛という形を取る。協賛金として100万円を支出することを決定。

## 平成19年度会計報告

<b>【収入の部】</b>	
前年度繰越金	12,399,869
入会金及び終身会費(予約金含)	8,090,000 (10,000×395) (20,000×207)
利息収入	460
収入計	20,490,329
<b>【支出の部】</b>	
理事会関係経費	193,060 (交通費・総会懇親会補助)
経済学部活動支援	1,000,315 (毎年100万円・総会承認済)
その他学部補助	30,987 (現代の産業・社会事情補助)
卒業表彰	90,000 (成績優秀者3名旅行券)
同窓会連合会費	70,315 (拠出金)
印刷製本費	471,500 (4号・5号会報、名簿調査カード)
通信運搬費	1,063,703 (会報2回発送、調査カード着払い)
事務用品費	93,648 (封筒、宛名ラベル、フラッシュメモリ)
人件費	727,500 (パート給与)
雑費	8,352 (灯油代)
支出計	3,749,380
20,490,329 (収入合計) - 3,749,380 (支出合計) = 16,740,949	
<b>【次年度繰越金】</b>	¥16,740,949 (内訳は備考を参照)
<b>備考</b>	
払込口座残高(旧)	299,315
払込口座残高(新)	6,523,640
預貯金:郵便貯金(定額)	9,500,000
郵便貯金(普通)	416,370
現金	1,624
合計	16,740,949

平成19年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成20年7月12日

監事 伊東一雄 印      監事 川田智弘 印

- 動報告について
- ・前回理事会以降の活動内容について矢口会長より報告
  - ・文理学部・人文学部・経済学部・理学部同窓会役員連絡会報告について
  - ・平成20年8月2日、9月20日に開催された標記連絡会の内容について矢口会長より報告
- 会則に従い、矢口会長を議長以下について協議。
- 5 協議事項
    - (1) 同窓会費の徴収状況について
    - 9月末現在、578名である事を確認。
    - 今後も会員への依頼を重ね、
  - 6 議長退任
    - 閉会(矢口会長)
    - 午後4時10分に閉会となる。(会長)

- 徴収率を上げる事を確認。
- 納入依頼文の内容について検討、出状を決定。
- (2) 同窓会総会について
- ・協議内容ならびに役割分担について確認。
  - ・経済学部創立30周年記念行事について
  - ・学部より30周年記念行事について説明。
  - ・記念基金造成に関しては具体案が提示された段階で、再協議する事を決定。
- 6 議長退任
- 閉会(矢口会長)
- 午前10時10分に閉会となる。(会長)

経済学部同窓会総会報告

日時：平成20年10月12日(日)
午前10時30分より
場所：信州大学経済学部
新棟6階 第1会議室

- 1 開会(西村副会長)
2 会長挨拶(矢口会長)
3 名誉会長挨拶(渡邊経済学部長)
4 議長選出 3 K 藤沢佳文さんを選出
5 書記ならびに議事録署名人の任命

- 6 議事
(1) 事業報告および会計報告の承認について
・ 矢口会長より原案を説明。
・ 川田監事より会計監査報告。
・ 質疑応答は特に無く、全員の拍手により原案承認される。
(2) 予算および事業計画について

・ 矢口会長より原案の説明に先立ち、総会開催のタイミングにより既に事業年度のスタートしており原案の一部は実施されている旨の説明がなされた後、予算および事業計画について説明がなされた。
【主な計画】
経済学部活動支援、学生表彰、同窓会報送付2回、学部30周年記念行事、信州大学60周年記念行事、等
本日開催される学部30周年記念祝賀会に対し100万円を支出した旨の補足説明がなされた。

- ・ 同窓会終身会費の納入状況(9月末現在、578名)について説明がなされた。
・ 同窓会名簿の作成については、個人情報保護の関係から冊子としては作成せず、データとして保持し、会員に提供する方向とした旨の報告がなされた。
・ 質疑応答の後、特別の意義はなく、全員の拍手によって原案が承認された。
(3) 役員選出について
・ 会則に従い、会長および会計監事を募るも、立候補者はなかった。
・ 会長より、現体制全員の留任の腹案が提示され、各人も了承したため、全員の拍手をもって承認された。
(4) その他
・ 出席者より、総会の実施時期に關し決算後早期に開催すべきとの発言があり、会長より、次回については大学60周年行事(平成21年6月6日)に合わせる等前倒しを理事会で検討する旨回答がなされた。

7
午前11時30分に閉会となる。(会長)

信州大学東京同窓会の開催について

文理学部の諸先輩方により毎年開催されている、信州大学東京同窓会が今年も下記により開催されるはこびとなりました。つきましては、東京近郊にお住まいの会員の皆様方でご都合がつかれます方の積極的なご参加をお願いいたします。

信州大学経済学部同窓会 会長 矢口晋司

記

日時：平成21年2月7日(土)
午後2時30分受付開始

場所：東京都 アルカディア市ヶ谷

内容

- (1) 記念講演 山階鳥類研究所所長 山岸 哲 (信州大学教育学部卒)
(2) 信州大学の近況と課題
信州大学学長 小宮山 淳
信州大学理事 白井 汪芳

懇親会

講演会等終了後、会費制(1万円)による懇親会があります。

その他

記念講演および懇親会ご出席の方は、同窓会事務局までメールまたは電話(火・木曜日の10時~15時)でお知らせください。

(メールアドレス、TELは一面参照のこと)



編集後記

経済学部創立三十周年記念行事は、同窓会のご支援により、盛大におこなわれた。厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。同窓会の共催というかたちでおこなわれ、来賓の方々には経済学部同窓会パワ...
同窓会は、これまで学部や大学の応援団であった。だが同時に、これからは、潜在的「学生集団」としても、また潜在的「教員集団」としても、期待される存在である。潜在的「学生集団」とは、高齢化の時代のなかで、母校の社会人教育や生涯教育の対象になりうる存在だということであり、潜在的「教員集団」とは、社会人として培った貴重な能力や経験を母校の後輩に伝授しうる存在だということである。潜在的「教員集団」としての同窓生のパワーは、すでに発揮されている。本会報でも報告されている卒業生による講義「現代の産業・社会事情」である。この講義は、一九九二年度に始まるが、各界の先輩による講義として、学生の高い評価を受けており、今後これを拡充・展開していくかなければならない。その際、ポイントには、同窓生の業界別組織化にあるのではなからうか。同窓生の業界別集団があれ...
ば、現代の産業・社会事情」の講師の選出も、あるいはその他の講義においてゲスト講師を呼ぶことも、容易になるであろう。そればかりではない。同業の同窓生の横のつながりが形成される。さまざまな効果も期待されるのである。同窓会の皆様、このようない可能性について、ご検討ください。よいお年を!

(事務局)